

11月1週間が経ちました。

日毎に秋の深まりを見せてありますが、季節は初冬ですね。

こどもたちは、忍び寄る冬の足音にもめげずに、毎日元気いっぱいです。

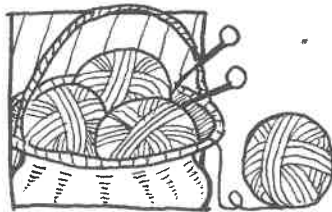
寒さに、すぐに弱音を口に出すのは、いつも大人です！

こどもたち、すごいです！

■ 発表会はこれ迄、1部と2部に分けて開催されてきました。

1部では、学年によりますが、器楽合奏や楽器の演奏、そして唄の合唱の発表です。

2部では、年少組はおはなし劇、年中組はCDから流れる音声を乗って演じるリズム劇、そして、年長組は音楽劇と言ったオペレッタと言った本格的な劇を発表しております。



コロナの影響で、こどもたちの活動が大幅に制限されており、今年度の発表会の在り方にも、おからの行政の方針を無視する訳には行きません。

こどもたちにとって、やはり羨望があり、育ちぶりをしっかりと観て頂ける発表会にしたいです。

■ 時折、園舎内に楽しげにオルガンの音と一緒に太鼓やカスタネットや木琴などリズム楽器の音が流れてきます。

勿論、その音がどこから流れてくるのかは、3階に居ると分かりませんが、やり始めたばかりの段階では、「あっ！年少組だな？」

とか、「これは年中組だろう！」と判断が付きやすいですが、日が経つにつれ、それぞれが上達してくると分からなくなっ

きます。

そして、1972年の開園以来、取り組んで来た年長児たちのハーモニカ、これまで実に大きな成果を挙げているだけに、その活動が制限されていることが、残念でなりません。

(心の育ちシリーズ) こどもはみんなちがってみんないい

ママの専ら子育て
お茶の水女子大学
名誉教授 うえののぶこ
先生

産声を上げて生まれた赤ちゃんと、一人ひとりがそれぞれ個性を持っています。

そして育てて行くと「物語型」と「図鑑型」の2タイプに分かれた個性を見せます。

物語型は人間関係に敏感で、言葉と「こんにちは」「おはようございます」などの挨拶や、感情を表す言葉から覚え入ります。対する図鑑型は、ものやものの成り立ちの才に興味があり、その名前を沢山覚えようとします。

どちらがいいと言うのではなく、子どもは、小さくして個性を持っています。その個性によって関心や興味が惹かれるのは違うのです。

物語型の女の子は、このあそびが大好き。お人形に興味が無くて「ままごと」人形を使おうと考える。想像力が豊かで、ファンタジーの世界に入りこんでいます。

図鑑型の男の子は、みんなでヒーローごっこをするより、お気に入りの絵本をくり返し読んだり、のびのびや動物図鑑など図鑑類をあきずに眺めたり、積み木あそびを好む傾向があります。

あるお母さんからこんな話を聞きました。息子さんが二人いるのですが、まったくタイプが違っています。子どもたちが外で自転車を出かけようとした時のこと。上の子「ケガをしたら、ママ、悲しいから、気を付けてネ」と言うと、「ん」とすんなり返事。ところが、下の子に同じことを言ったら、何の反応も示しません。そこで、すこし理屈を深く「急ブレーキは滑りやすいから、気を付けてネ」と説明したら、初めて「うん、わかった！気を付けるよ」となりました。

どちらの親「うん」と返事をしてくれれば、親は楽な気持ちでいいです。

しかし、子どもは一人ひとり違うから面白いのです。

子どもが通りいっぺんの振る舞いしかなかったら、子育てはどんなに味気ないのでしょうか。

こどもはみんなちがってみんないいのです。